



# South Korea Project

## 韓国プロジェクト



HITOTSUBASHI UNIVERSITY



상명대학교  
SANGMYUNG UNIVERSITY



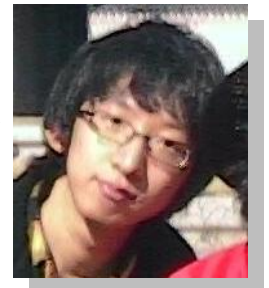
## 韓国プロジェクト チーフ挨拶 氏名:常安 郁彌

GETとしての韓国でのプロジェクトは意外にも今年が初めての試みでした。私自身も韓国に行くのが今回初めてであったので、とても充実した時間を過ごせたように思います。しかし、プロジェクト開催までは実に様々な困難がありました。最後まで本当に今年韓国で活動できるのかという不安は消えませんでした。実際の活動を終えて本当に感じているのはそのような苦勞の甲斐があったということです。従来のGETの活動に当てはめれば今回の韓国での活動は完全であったとはいえないかもしれませんが、ですが、私は今回の活動で実に多くの人と出会い、交流できたと自信を持って言えます。また多くの人との出会いから多くのことを学びとれたと思います。改めて韓国プロジェクトに関わったすべての方々に感謝したいです。



## 韓国プロジェクト 韓国人学生挨拶 氏名:ユン・スンミン

皆さん。こんにちは。厳しい寒さが行く前の二月、私は本校の梁国東教授を通じて常安郁彌さんのホストファミリーになったことがきっかけでこの文を書くことになりました。初めは学校の先輩を通じて「ホームステイをしたらどうか？」と誘われて、本当に心配しました。日本語も上手でないし、ホームステイは一度もしたことないし、また家も広くないので、親も私も心配でなりません。でも、私はまたとない機会だと思って、ホームステイを試みることにしました。いよいよ 25日、空港での初めての出会いは本当にごちありませんでした。でも、実家に帰るバスで常安と私は日本についての様々な話をし、すぐに親くなりました。色々な日本のドラマや芸能人について話が弾みました。家ではいたずらっ子の中学生の弟とパソコンのゲームで遊び、親とは焼肉を食べたり、ビールを飲んだりして、すぐ親くなりました。そうしながら、ミョンドン(明洞)、キョンボックン(景福宮)、ナムサンタワー(南山タワー)ロッテワールドなど、ソウルの様々なところを回って大変でしたが、いい思い出を作ることができました。私にとって最も印象深かったのは、やはり大学の新生のオリエンテーションです。大学の新生と一緒に芸もしたし、韓国の酒の文化も教えてあげて常安と田尻と韓国の友達とでたくさんの思い出を作ることができて、私も嬉しかったです。家では果物を一緒に食べて韓日間の問題についてお互いに真剣に話したこともありました。最終日、空港で常安と田尻が日本に帰る時には同じホストファミリーであった 정현と一緒に泣いた記憶も懐かしいです。そのように私にも常安にもお互いに良い思い出になったと思います。このきっかけを通してこれからも良い関係を築いていければいいと思います。最後に、日本語が上手でないのに理解してくれて、楽しい思い出を作ってくれた常安と田尻に「本当にありがとうございます。」という言葉伝えたいです。



## 韓国プロジェクト 韓国人学生挨拶 氏名:クァン・ソンヒョン

ホームステイを受け入れるかどうかという提案を受けた時、私は少しためらった。しかしこの機会が私にとって大いに役に立つはずだという確信がふと浮かび上がった。それでホームステイを受け入れる決心をした。空港での始めて出会いはごちなかった。お互いをよく理解しなければならぬ一心で対話も交わして一緒にご飯も食べて、お互いの共通点も尋ねようと努力した。しかしやはりそれは容易ではなかった。私は二日間どのようにすればもう少しよく接することができるか、楽に過ごすことができるかということを考え、毎晩悩んだ。そして、ありのままを見せよう、これが私の得た答だった。この 5泊6日はたぶん私にとって忘れられない日々であり、また成熟の時期であったと思う。大事な縁を作ることができたので楽しかった。



# 韓国プロジェクト経緯



## 1、開催経緯



GETのアジアの活動ではもともと香港にある香港城市大学との交流があった。しかしGET2009の活動では香港プロジェクトが人数不足のため開催できなかった。

そこでアジアで他の交流相手を探すことになり、顧問の太田先生のお力添えのもと韓国のソウルにある祥明大学の日本語学科の学生と交流することとなった。同時に日本語学科の先生を紹介していただき、その先生が学生代表を選定してくださり、その学生代表と先生と私(常安 郁彌)の三人で連携を取りながら話を進めた。

しかし2009年は金融危機の影響もあり、韓国の学生は日本へ来ることができず、片一方のホームステイとなった。またこちらのメンバーも私ともう一人しかいなかったもので、GETの活動というよりもより個人的なものとなった。訪問前には韓国についての勉強や、パートナーとの連絡を行った。このように相互のホームステイということではできなかったが韓国での活動自体は韓国の学生がよくしてくれたのでとても充実していた。

・梁東国先生(ヤンドンクック先生)  
祥明大学の日本語学科の学科長。  
このプロジェクトを支援してくださった。滞在中も私たちにとてもよくしてくださった。



## 2、開催状況



訪問は2月25日から3月3日の1週間の活動となった。活動全体のハイライトは祥明大学の新1年生の新歓合宿に参加したことである。同じ日に入学式や新入生向けのガイダンスなどが行われ、そちらにも参加できたのでとてもいい経験となった。他にはソウル市内の観光や、祥明大学へ日本語学科の授業参加などの活動を行った。

祥明大学の日本語学科では日本人の留学生は毎年1人しかいない。さらに交流協定を結んでいるのが熊本と北海道の大学だけだったので日本人、東京の学生との交流をととても喜んでくれた。

本当に暖かい歓迎を受けて私たちもとても気持ちよく活動に参加できた。さらに学生は日本のポップカルチャーや日本ニュースなどにとっても精通していて私たちを驚かせた。その反面私たちが韓国について知っていることは本当に少ないことがわかった。

私はGET2009の前年にもこの活動に参加しており、その年は香港で活動を行った。その時にも日本のポップカルチャーに対する関心の高さに驚かされた。韓国でも日本語を勉強しようという決心する要因のひとつとして日本のポップカルチャーに興味を持っていたからということも挙げ

げる人が多かった。日本のソフトパワーということで捉えることもできる。

しかしながら7日間という短い間に実に多くの活動を行い、私たちのパートナーも含めて日本語学科の学生が毎日数人私たちの活動に参加してくれた。結果として本当に多くの学生と交流できた。ホストファミリーも私たちを歓待してくださった。こういった活動は本当に多くの方々に支えられて成立するのだということが本当に理解できた。

# GET09韓国プロジェクト メンバー紹介

Japanese members

田尻 佑介

法学部2年サブチーフ

常安 郁彌

社会学部2年 チーフ



South Korea Members

ユン・スンミン

日本語学科 1年

パートナー:常安郁彌

クアン・ソンヒョン

日本語学科 1年

パートナー:田尻佑介



# Exchange in Korea

09.2.25~3.3



2/25 初顔合わせ  
2/26-27 祥明大学 Freshman's camp  
2/28 ソウル観光



## 2/25 (Wed) Day of Arrival

担当者:常安 郁彌

- ・午後 2 時ごろ仁川国際空港到着
- ・参加メンバーと出会う
- ・円が強かったので両替で札束を得る
- ・パートナーの家に帰りくつろぐ
- ・ホストファミリーと夕食
- ・次の日に備えて早めに休む



**感想** 空港で今回参加するメンバーと出会い、その後は各ホームステイ先にすぐに移動した。ホームステイ先につくとパートナーの弟が私の名前を書いた絵を飾ってくれていて感激した。パートナーやその弟とゲームをしたり話をしたりしながらくつろぎ、その後ホストファミリー全員と焼肉を食べに行った。なんとか自己紹介をハンゲルで行った。暖かい歓迎を受けてとても気持ちよく一日を終えられた。



# Photos

# 2/26, 27 (Thu, Fri) Freshman's Camp Day

担当者:田尻 佑介・常安 郁彌

## 【日程】

- ・ソウル中心地からバスで一時間かけ大学へ
- ・大学にて日本語学科の先生方と出会う
- ・入学式見学
- ・日本語学科新入生とともにオリエンテーション
- ・大学からバスで2時間ほどかけホテルへ
- ・語学系新入生のイベントに出席
- ・夕食後、各部屋で先生・学生同士の懇親会
- ・朝まで懇親の(渾身の)飲み会
- ・翌朝、大学OBゲストによるプレゼン
- ・バスでソウルまで帰る(解散)
- ・キョンボックン、ソウルタワー観光後帰宅

## 【感想・田尻】

この2日間で多くの祥明大学の学生と交流した。もともと現地の学生たちとの交流を望んでいたが、実際に大学の学校行事に参加できるとは思っていませんでしたので、この経験は私にとってとても新鮮だった。それでは、この日のことを細かく伝えていきたい。

訪問2日目となったこの日。ステイ先のお父さん特製の朝ごはんを食べて元気をつけ、大学に向かう。道中にパートナーであるソンヒョンの同級生と合流



する。日本語で会話しようとしてくれる姿勢についてうれしくなる。ソウルから1時間程バスで移動すると、祥明

大学に到着した。

キャンパスは、とても近代的で広く、一橋大学のキャンパスに馴染んでしまっ



ている私にはそれがより一層感じられた。

日本語学科の学長の梁先生に挨拶に行くと、先生のはからいで入学式を見学させてもらった。式の始めの方は厳かに行われていたが、一段落着くとサークル紹介が始まり、日本のそれと同じように各サークルが新入生に向けてアピールをした。

その後、日本語学科新入生たちと一緒にオリエンテーションに参加した。そこで、私たちは軽く自己紹介した(日本語で)が、入学したばかりで新しいクラスメイトとのコミュニケーションにも困っていた彼らに私たちはどう映っていたのだろうか。

またしても梁先生のはからいで新入生の合宿に参加することになった。ホテルでは語学系新入生によるイベントが行われ、各学科がその言語にちなんだ出し物を行った。当初、私たちはそれを見るだけだと安心していましたが、いざ日本語学科の出番になると、前に出されて一緒になってグダグダな踊りを披露することになった。夜になると当然のように飲み会が始まった。みんながゲームで盛り上がり、チャミスル(韓国風焼酎)とビールを延々と飲み続けた。お酒に強くない私には少々ハードだった(例:サイダーを飲もうとすると、グラスをとりあげられ、代わりにチャミスルを渡される)が、とてもおもしろかった。

翌朝、典型的な二日酔いを我慢しながら、残りのイベントを終え帰路に着く。

午後になると元気が戻り、その勢いでソウル観光をした。



——キョンボックンは残念ながら休館だったが、代わりにトッスグンを訪れ、ソウルタワーにも行った。ソウルタワーは展望台からの景色が素晴らしいのはもちろん、トイレやその他の施設も高級感が漂っていて圧倒された。そして何より感動したのはタワー内にあるレストラン。食べ放題なのにご飯のクオリティーがとても高く、食事であれだけの満腹感を得られたのは久しぶりだった。こうして長く深い2日間は幸福感をもって幕を閉じた。

#### 【感想・常安】

私にとってこの新歓合宿はまさに韓国の学生生活に入り込んでそれを文字通り「体験する」機会であった。実際にリアルタイムで書き進めた日記に基づいて当日を振り返りたい。

交流している祥明大学はソウルからバスで一時間ほど離れたところにある。大学に隣接する寮に住まないのであれば毎日ソウル市内のバスターミナルまで通いさらに一時間バスに揺られることになる。大学は一つの山の中にあるといった感じがした。

日本語学科で梁先生と出会い、入学式を見に行ったが、意外と新生は私服でラフな感じであった。しかし壇に上がって話す人たちは大学帽をかぶりいかにもという感じであった。式自体も、その後のサークルの新歓の出し物も日本とあまりかわることはなかった。新生の緊張感や、まだなじめていない感じが伝わってきた。

その後の日本語学科のオリエンテーションに約40人の新生とともに参加した。私たちはGETの活動とともに簡単に自己紹介をした。アイスブークの意味を込めて日本のテレビドラマの「のだ



めカンタービレ」のなかの「おなら体操」を何人かの新生とともにやった。学科の人数が



少ないのでこれらの企画はすべて2,3年生が行っていた。その後バスに乗り込みホテルに向かった。そ

こでは語学系の学生のイベントが行われ、各語学の先生が出し物を披露し、新生も出し物をした。(日本語学科の先生方は「大きな栗の樹の下で」の替え歌、学生はさきほどの「おなら体操」を行った。私たちも参加した《させられた?》)各学科でかなりまとまりがあって面白かった。盛り上げ役の司会の人がいじられるのは日本ととても似ていた。ただ何かひとつやるということになると韓国では歌かダンスをするのが定番らしい。何度もアイドルグループの曲に合わせてダンスをさせられていた。

その後、夜にホテルの一室に集まり、先生のありがたい言葉を聞き入る新生はまじめそのものであった。先生がこういった学生の集まりにもいらっしゃるのが驚きであった。先生が帰ったあとはゲームや話で盛り上がり、チャミスルとビールで一晩明かした。まさにいつもと変わらない飲み会という感じであった。先輩が酔いつぶれた新生のアフターケアをしっかりしていた。韓国では女の子がゲームに失敗して飲まなければならなくなったとき隣の男が代わりに飲むのが一般的らしい。そんなこんなでたくさん飲んだ次の日の朝のダレた空気なども、無論同じであった。

27日の午後も疲れ知らずで精力的に遊び、最後はソウルタワーの展望食べ放題レストランで満腹になった。なんとも濃密な時間を過ごしたなと疲れながら思いつつも、「This Is it !!」と心の中で唱えていた。





## 2/28 (Sun) Day Of Seoul

担当者:田尻 佑介



- ・景福宮を訪問し民族衣装を体験する
- ・昼食に有名な参鶏湯を食べる
- ・明洞でショッピングをする
- ・ビールバーで韓国風飲み会をする
- ・チムジルバン（韓国式サウナ）に行く

**感想** 思い切り観光を楽しんだこの日、3年生の男子学生ソンヒョクとキュベクと出会う。2人とも日本語が流暢でびっくりする。景福宮で韓国の民族衣装を初体験。見事なハマリっぷりで従業員と間違われるくらいだと笑われる。コラーゲンたっぷりて体にもいい参鶏湯のあまりのうまさに感動。明洞では円高をいいことにBBクリームや香水を買いあさる。夜はサウナにも行く。まさに韓国を満喫した日となった。

## 3/1 (Sun) Lotte World Day

担当者:常安 郁彌

- ・韓国式サウナからロッテワールドへ
- ・ロッテワールド内観光
- ・ロッテマート内ショッピング
- ・ホストファミリー経営の寝具店へ
- ・メンバーで焼肉を食べる



**感想** 韓国式のサウナからロッテワールドへ移動し、全力で楽しんだ。ロッテワールド自体は日本の地方の遊園地のようなだったがロッテマートなどと合わせると巨大なレジャー施設であった。観光後、パートナーから韓国のアーティストのCDをもらったり、ホストファミリーと私と田尻とパートナー全員で焼肉を食べたりととてもうれしいことが続き本当に充実感を得ながら帰りたくないと思うようになった。

## 3/ 2(Mon) University Day

担当者:田尻 佑介



- ・ 祥明大学で日本語学科の授業を受ける
- ・ 祥明大学内を見学
- ・ 先生方や学生にお別れを言う
- ・ みんなで焼肉を食べる
- ・ 解散後、各自でお土産を買う

**感想** 祥明大学で2年生と新入生の授業を受けた。2年生の授業は先生が休まれたこともあってプリント課題に。日本人の私達に質問が殺到する。この日でパートナー以外の学生や先生方とは会うのが最後だったのでお別れの挨拶をして淋しさがこみあげてくる。一部の学生や梁先生と焼肉をたらふく食べる。この日は早めに解散し、明日に備える。ホストファミリーからたくさんのお土産をもらい感動する。

## 3/3 (Tue) Day of Departure

担当者:常安 郁彌

- ・ ホストファミリーに別れを告げる
- ・ 空港にパートナーと向かう
- ・ 空港でメンバーに別れを告げる
- ・ 無事帰国



**感想** まだまだ一緒に活動したかったがついに別れの日がやってきた。たくさんお土産をいただいたが、最後は使っていた新品の布団までいただいた。(ホストファミリーは寝具店経営) かつてないすがすがしい気分で超過料金を支払った。どうしてだろう、韓国やメンバーと離れるのは悲しかったが、また会うことができるというなんともない確信があった。それはただ隣の国だからというわけではないかもしれない。